

SHINTO TAIZEN

神道大全

すべて

文化教養入門

神社手帖

今月の言葉

神職の小話

強運から学ぶ生き方

記録を

探す

神社手帖

公開：2025年10月29日 / 最終更新：2025年12月15日

現役神職がお伝えする、神社での参拝方法と日本文化～服装・マナー・注意点～



皆さんも、一度は神社に参拝されたご経験があるのではないかでしょうか。しかし、いざ参拝しようとして「正しいお参りの作法ってどうすればいいのだろう?」と思ったことはありませんか?この記事では、神社参拝の正しい方法について、わかりやすく解説してまいります。



前田 典文
著者

1 神社参拝方法の流れ

1.1 鳥居と神門の前の礼儀とくぐり方

- 1.1.1 鳥居・神門の中心は避けて立つ
- 1.1.2 鳥居と神門の前で一度浅いお辞儀をする
- 1.1.3 神聖な空間(内側)と俗世間(外側)との結界

1.2 参道の歩き方

- 1.2.1 参道中心(正中)は歩くのを避ける

1.3 手水舎での清め方(手水の作法)

- 1.3.1 (手水舎に柄杓が備え付けられている場合) 右手に柄杓を持ち水をくみ左手を洗う
- 1.3.2 柄杓を左手に持ちかえ、右手を洗う
- 1.3.3 右手に柄杓を持ちかえ、左手に水をため口を洗う
- 1.3.4 左手を再度洗う
- 1.3.5 余った水で柄杓を洗う

1.4 手水舎での清め方(流水の場合)

- 1.4.1 両手を洗う
- 1.4.2 両手に水をため、口を洗う
- 1.4.3 再度両手を洗う

1.5 賽銭箱の前の所作と賽銭を入れる意味

- 1.5.1 まず賽銭を入れる
- 1.5.2 賽銭は静かに賽銭箱に入れる
- 1.5.3 賽銭は神様への感謝や報恩(ほうおん)を表す行為

1.6 鈴の鳴らし方と意味

- 1.6.1 鈴は神社にある（お寺には基本的ない）
- 1.6.2 鈴は神様を呼ぶ合図と場を清める力がある
- 1.6.3 鈴の紐をしっかりと引いて鈴の音を2～3回鳴らす
- 1.6.4 力いっぱい引いたり、何度も続けて鳴らしすぎない
- 1.6.5 お寺には大きな鐘、神社には鈴が設置されている

1.7 二礼二拍手一礼の作法

- 1.7.1 二回深いお辞儀をする
- 1.7.2 二回拍手をする
- 1.7.3 もう一度深いお辞儀をする

1.8 参拝後の退出マナー

- 1.8.1 参拝後は、社殿に向かって浅いお辞儀をする
- 1.8.2 参拝後は静かに退出する

2 神社参拝の意味と日本文化

2.1 日本人と神社参拝の歴史的背景

- 2.1.1 日本人の神社参拝は古代から
- 2.1.2 自然のもの（山・川・岩・海・木・太陽など）を神として祀っていた

2.2 神社と神道の基本知識

- 2.2.1 神道成立の明確な記録はない
- 2.2.2 日本列島で古代から行われていた民族信仰

3 標準的な参拝時の服装

3.1 自由に参拝する際の服装

- 3.1.1 厳密な服装の規定はないが露出は控える

3.2 祈祷や神事に参列する場合の服装

- 3.2.1 [男性の場合]襟付きのシャツやジャケット、スーツを着用
- 3.2.2 [女性の場合]膝下丈のスカートやワンピース、落ち着いた色味のシャツ
- 3.2.3 [履物について]サンダル類は避ける
- 3.2.4 色味は落ち着いたものを

4 神社参拝のマナー・時間帯

4.1 参拝に適した時間帯

4.1.1 午前中は参拝者が少なく、静かな環境で参拝できる

4.1.2 夜間は神社によっては参拝ができないので要注意

4.2 境内でのマナーと注意点

4.2.1 ペットとの参拝は禁止されている神社もある

4.2.2 境内は禁煙

4.2.3 境内では静かに、大声は出さない

4.2.4 本殿や神職がいる場所は撮影禁止のことが多い

5 有名神社での参拝特徴

5.1 伊勢神宮(いせじんぐう)

5.1.1 八度拝八開手(はちどはい・はちかいて)

5.2 出雲大社(いずもおおやしろ)

5.2.1 二礼四拍手一礼

6 神社参拝方法を英語で説明する方法

6.1 神社参拝でよく使う基本英語表現

6.1.1 神社=「Shinto shrine」

6.1.2 「参拝する」=「worship」または「visit a shrine」

6.1.3 「手水(てみず)」=「Purification」

6.1.4 「賽銭」=「Offering」

6.1.5 「拍手」=「Clap」

6.2 神社参拝の具体的な方法と英語表現

6.2.1 鳥居の中央は神様の通り道のため、端を歩くのがマナーである

6.2.2 手水の作法は、両手と口を清めることである

6.2.3 賽銭は静かに賽銭箱に入れ、鈴は2~3回鳴らすのが一般的である

6.2.4 参拝の正式な作法は、二礼二拍手一礼である

6.2.5 参拝後は社殿に一礼して退出するのがマナーである

6.3 外国人に神社参拝を説明する際の注意点

6.3.1 神道は日本固有の宗教であることを伝える

6.3.2 参拝方法の意味や理由を伝えると理解が深まる

6.3.3 参拝時は帽子やサングラスを外し、静かに参拝することを伝える

神社参拝方法の流れ

鳥居と神門の前での礼儀とくぐり方



神社の正面にある鳥居

鳥居・神門の中心は避けて立つ

神社に入る際、多くの神社では「鳥居(とりい)」があり、本殿の手前には「神門(しんもん)」が設けられています。(神門がない神社もあり)

鳥居や神門では、正中(中央)を避けて通るようにしましょう。

正中(せいちゅう)と呼ばれる参道の中央は、神様の正面とされているため、真ん中に立ったり歩いたりすることは避けることが礼儀です。

手水舎側を歩くと、手水を行った後に正中を横切らずに歩くことができます。

鳥居と神門の前で一度浅いお辞儀をする

鳥居や神門をくぐる際は、神様のいらっしゃる神聖な空間にお邪魔することになります。

そのため、くぐる前に一度浅くお辞儀をし、神様への敬意を表してから進むようにしましょう。

神聖な空間(内側)と俗世間(外側)との結界

鳥居や神門は、神様のいらっしゃる神聖な空間(内側)と、私たちの暮らす俗世間(外側)とを分ける「結界(けっかい)」の役割を持っています。

そのため、鳥居や神門を通る際には神様がいらっしゃる空間に足を踏み入れていることを意識し、通行しましょう。

参道の歩き方

参道中心(正中)は歩くのを避ける



参道の中心を避けて歩く神職

参道の中央部分は「正中(せいちゅう)」と呼ばれ、神聖な場所とされています。そのため、参拝者は中央を避けて左右どちらかを歩くようにしましょう。

このときに、手水舎側を歩くようにすると、手水の前後でむやみに正中を横切らずにすみます。

より丁寧に行う場合は、正中を横切る際に頭を下げて横切ることで、神様に対してより丁寧な振る舞いとなります。

出典：[参道について | おまいりする | 神社本庁公式サイト](#)

手水舎での清め方(手水の作法)

鳥居をくぐり境内に入った後は、まずは参拝の前に手水舎(てみずしゃ)で身を清めます。

(手水舎に柄杓が備え付けられている場合)右手に柄杓を持ち水をくみ左手を洗う

まず右手で柄杓を持ちます。

柄杓にたっぷりと水をくみ、左手を洗います。

出典：[手水の作法について | 大國魂神社](#)

柄杓を左手に持ちかえ、右手を洗う

柄杓を左手に持ちかえ、右手を洗います。

右手に柄杓を持ちかえ、左手に水をため口を洗う

右手に柄杓を持ちかえ、左手に水をため、口を洗います。

このときに柄杓に直接口をつけないように注意しましょう。

左手を再度洗う

口をつけた左手を再度洗います。

余った水で柄杓を洗う

最後に柄杓内の余った水で、柄杓の柄を洗います。柄杓を立てて柄に水を流すことで、柄杓の柄を洗うことが出来ます。終了後、柄杓を元の場所に戻します。

手水舎での清め方(流水の場合)



コロナ禍を経て、柄杓を置かずに流水で手水を行う神社も増加しました。

そのような柄杓を使わないので、手水作法をお伝えします。

両手を洗う

最初に両手を洗います。柄杓を使わないので、左右の手を交互に洗う必要はありません。

両手に水をため、口を洗う

そのまま両手に水をため、口に水を含み洗います。

水を排水口に吐き出す際、左手で口元を覆い隠すことで、水を吐き出す際の口元を周囲へ見せずに済みます。

再度両手を洗う

最後に両手をもう一度洗います。

出典：[参拝方法](#) | [おまいりする](#) | [神社本庁公式サイト](#)

賽銭箱の前での所作と賽銭を入れる意味

まず賽銭を入れる



賽銭箱に賽銭を入れる様子

手水での清めが済んだら、参拝を行う拝殿前の賽銭箱に向かいます。

賽銭箱の前で再度浅いお辞儀をし、お賽銭（おさいせん）を賽銭箱に納め、鈴があれば鈴を鳴らします。

※お賽銭箱の前

賽銭は静かに賽銭箱に入れる

賽銭は静かに賽銭箱へ入れるようにしましょう。賽銭を投げ入れたり、雑に扱う行為はしないように注意しましょう。

賽銭は神様への感謝や報恩（ほうおん）を表す行為

お賽銭の「賽（さい）」とは、感謝や報恩（ほうおん）を表す行為を指し、つまり神さまからのご利益（りやく）に対して「お礼・お返し」をすることを意味します。

そして「銭（せん）」とはお金を意味しますので、お賽銭とは「神様へのお礼や感謝の気持ちを込めて納める金銭」という意味です。

鈴の鳴らし方と意味

鈴は神社にある（お寺には基本的ない）



神社に設置されている鈴

神社の賽銭箱の前に吊るされている「鈴（すず）」は、実はお寺には置かれていません。

一方で、お寺には神社には見られない「鐘」があります。

鐘の音は「煩惱を消す」ためのもので、木魚の音は「読経のリズムを取る」ためのものといわれています。

つまり、仏教では「音＝心を整えるもの」と考えられており、「神仏に知らせるための鈴」は用いないために、お寺に鈴は置かれていません。

鈴は神様を呼ぶ合図と場を清める力がある

神社の賽銭箱の前に吊るされている「鈴(すず)」が、何のためにあるかご存じでしょうか。

お参りの際、多くの方がまず目にするのが、この鈴です。

この鈴は、単なる飾りではありません。

鈴の音には、場を清める力があるとされ、また参拝者が神前に立ったことを神様にお知らせする役割を持っています。

つまり、神様の世界と人間の世界をつなぐ「神聖な音」としての意味が込められています。

神社本庁のホームページでは、

「この鈴は、その清々しい音色で参拝者を敬虔な気持ちにするとともに、参拝者を祓い清め、神靈の発動を願うものと考えられています」

と記されています。

出典：[参拝の際に鳴らす鈴について | おまいりする | 神社本庁公式サイト](#)

鈴の紐をしっかりと引いて鈴の音を2～3回鳴らす



鈴を鳴らしている神職

鈴の紐は、しっかりと引き、鈴を2～3回鳴らしましょう。

もし鈴の音が鳴らなかつた場合は、あらためてもう少し強めに引いて鳴らしてみましょう。

力いっぱい引いたり、何度も続けて鳴らしすぎない

鈴は、力いっぱい引いたり、何度も続けて鳴らしすぎないようにしましょう。

周囲の参拝者の迷惑になつたり、鈴や紐を傷めてしまう恐れがあるため、適度な力で、必要な回数だけ鳴らすことがマナーとされています。

お寺には大きな鐘、神社には鈴が設置されている

お寺に設置されているこの鐘は「梵鐘（ぼんしょう）」と呼ばれ、仏教寺院特有のものです。

梵鐘の音には、心を静め、煩惱を離れて仏の教えに目覚めることを象徴する意味があるとされています。

一方、神社では鐘の代わりに鈴が用いられます。

神道では、音を立てることで邪気を祓い、場を清めるという考え方があり、その役割を担っているのが鈴なのです。

(参考)知恩院『除夜の鐘』<https://www.chion-in.or.jp/special/joya/>

二礼二拍手一礼の作法

二回深いお辞儀をする

はじめに、賽銭箱の前で神様に向けて二回深いお辞儀をしましよう。



深いお辞儀をしている

二回拍手をする

次に、二回拍手をします。

まず胸の前で両手を合わせ、二回拍手を打ちます。



2回拍手をする

もう一度深いお辞儀をする

最後にもう一度深いお辞儀をします。



最後にもう一度お辞儀をする

参拝後の退出マナー

参拝後は、社殿に向かって浅いお辞儀をする

参拝が終わったら、拝殿に向かって浅いお辞儀をし、神様に別れを告げます。

その後、参道の中央を避けて鳥居へと戻ります。

鳥居を出る際には、振り返って社殿に向かい、軽く一礼するとよいでしょう。

このように、一つひとつの作法を丁寧に行うことで、神様に対する礼儀を表すことができます。

参拝後は静かに退出する

参拝後は静かに退出します。

参拝の順番を待っている方がいらっしゃる場合もあるので、参拝終了後は速やかに場所をあけましょう。

神社参拝の意味と日本文化

日本人と神社参拝の歴史的背景

日本人の神社参拝は古代から

神社への参拝は古代から続く伝統です。神社(神道)は国家や王朝による明確な始まりがなく、日本人の暮らしとともに自然発生的に形成されてきた民族信仰です。

自然のもの(山・川・岩・海・木・太陽など)を神として祀っていた

山や川、岩、海、太陽など自然のあらゆるものに神が宿ると考えられ、八百万の神(やおよろずのかみ)として祀られてきました。古代から日本人は自然に神の存在を感じ、感謝や祈願を行う中で神社参拝が生まれ育ってきたのです。

現在でも、特定の山や岩などを御神体としてお祀りしている神社は多くあります。

例えば、富士山はいまでも富士山信仰の対象として祀られています。



富士山信仰の対象として祀られる富士山

出典：[神道とは](#) | [神社と神道](#) | [神社本庁公式サイト](#) 神社本庁「神道とは」

神社と神道の基本知識

神道成立の明確な記録はない

神道には特定の創始者や教典が存在せず、明文化された歴史もありません。むしろ日本各地で独自に信仰や祭祀が発達し、それらが統合されて神社という形態になっていきました。神道は「日本の民族宗教」と呼ばれ、日本人の生活や年中行事に深く根付いた信仰です。

出典：[神社神道の歴史\(2\)](#) – [東京都神社庁](#)

[神道とは](#) | [神社と神道](#) | [神社本庁公式サイト](#)

日本列島で古代から行われていた民族信仰

「民族信仰」とは、ある民族や地域に古くから伝わり、人々の暮らしと深く結びついてきた信仰のことを指します。

外から伝えられた宗教ではなく、その土地の自然や生活の中から、自然に生まれ育ってきたものです。

神道は、まさにこの民族信仰にあたります。

その特徴として、次のような点が挙げられます。

- ・日本列島の中で、自然発的に形づくられてきた
- ・山や川、あらゆるものに神が宿ると考える「八百万(やおよろず)の神」の信仰
- ・神社だけでなく、自然そのものを神聖な存在として大切にする考え方
- ・「清め」「礼儀」「感謝」といった、日本人の価値観や道徳観にも影響を与えている

出典：[神道とは](#) | [神社と神道](#) | [神社本庁公式サイト](#)

標準的な参拝時の服装

神社にお参りに行きたいと思ったとき、

「どんな服装で行けばよいのだろう」と不安に感じる方もいらっしゃるかもしれません。

ここでは、参拝時の服装に関してご紹介します。

自由に参拝する際の服装

自由参拝とは、神職による祈祷や神事、祭典などに参加するのではなく、

個人のタイミングで気軽に神社を訪れ、お賽銭を納めて手を合わせる、日常的なお参りのことを指します。

お願いごとはもちろん、日頃の感謝の気持ちを伝えるために参拝される方多く、特別な準備がなくてもお参りできるのが特徴です。

とはいっても、神社は神様をお祀りする神聖な場所です。

服装については、最低限のマナーを意識したいところです。

厳密な服装の規定はないが露出は控える

自由参拝の場合、厳密な服装の規定はありません。

しかし露出の少ない服装を心がけ、「少しあしかこまつた普段着」を意識すれば、安心してお参りできます。

神様にご挨拶をする場であることを心に留め、落ち着いた気持ちでお参りできる服装を心がけましょう。

祈祷や神事に参列する場合の服装

祈祷や神事に参列する場合は、自由参拝よりも改まった服装が望まれます。

[男性の場合]襟付きのシャツやジャケット、スーツを着用

男性は襟付きのシャツやジャケット、スーツ(男性はネクタイ着用)などきちんとした服装を選びましょう。

スーツの場合は、ネクタイを着用するのが基本です。

露出の多い服や派手なデザイン、汚れた服装は避けてください。

[女性の場合]膝下丈のスカートやワンピース、落ち着いた色味のシャツ

女性は、膝下丈のスカートやワンピース、落ち着いた色味のシャツなどがおすすめです。

色はベージュやグレーなど控えめなものを選び、清潔感を大切にしましょう。

[履物について]サンダル類は避ける

サンダルやミュールなど、不安定な履物は控えましょう。

スニーカーやローファーでも参列は可能ですが、より丁寧な印象を求める場合は、

男性は革靴、女性はヒールの低いパンプスが適しています。





女性用のパンプス

色味は落ち着いたものを

服装の色は、全体的に落ち着いた色味が無難です。

原色や派手な柄の服装は避け、神前にふさわしい装いを心がけましょう。

神社参拝のマナー・時間帯

参拝に適した時間帯

午前中は参拝者が少なく、静かな環境で参拝できる

一般的に、神社参拝は午前中に行うのがよいとされています。

特に朝早い時間帯は参拝者が少なく、静かな環境の中で心を落ち着けてお参りすることができます。

また、多くの神社では早朝に境内の掃除が行われ、場が清められているため、朝の参拝はより清々しいものになるでしょう。

静かな雰囲気の中でゆっくり参拝したい場合は、平日や早朝など、人の少ない時間帯を選ぶのがおすすめです。

夜間は神社によっては参拝ができないので要注意

神社によっては、夜間は閉門しており参拝できない場合があります。

事前に閉門時間を確認したうえで、参拝するようにしましょう。

境内でのマナーと注意点

ペットとの参拝は禁止されている神社もある

神社によっては、ペットを連れての参拝が禁止されている場合があります。

古来より、動物は「穢れ」と捉えられることがあり、神聖な場所である神社では立ち入りを控えるという考え方が一般的でした。

近年では、ペット同伴を認める神社も増えてきていますが、対応は神社ごとに異なります。

必ず事前に確認し、周囲への配慮などマナーを守って参拝するようにしましょう。

出典；[神社に犬は入ってもいい？参拝時のマナーと犬連れOKのスポット | わんちゃんホンポ](#)



境内は禁煙



境内は基本的に禁煙

神社の境内は、基本的に禁煙です。

神社の建物は、木材や萱(かや)など燃えやすい素材で造られていることが多い、火気を持ち込むことは大変危険です。

また、神聖な場所で煙や火を扱うことはふさわしくありません。

そのため、境内では原則としてタバコを吸うことはできません。

境内では静かに、大声は出さない

神社は、心を込めて神様に祈る場所です。

境内では大声を出さず、静かに過ごし、真剣にお参りしている他の参拝者の妨げにならないよう心がけましょう。

本殿や神職がいる場所は撮影禁止のことが多い

神社の境内での写真撮影には、神社ごとに異なるルールがあります。

そのうえで共通するマナーとして、御神座（神様がお鎮まりになる場所）を正面から撮影しないこと、また神事や祈祷の最中に撮影しないことが挙げられます。

これらは、神様や参拝者への配慮によるものです。

許可のない場所での撮影は控え、案内表示や神社の決まりに従いましょう。

（参考）三島神社「神社の参拝方法を宮司が解説」

東京都神社庁「参拝の作法」

有名神社での参拝特徴

伊勢神宮（いせじんぐう）

八度拝八開手（はちどはい・はちかいて）

伊勢神宮には、内宮（皇大神宮）と外宮（豊受大神宮）があります。

いずれも正宮には一般参拝用の玉垣（たまがき）が設けられ、神域に近づくことはできません。伊勢神宮では特殊な拝礼として「八度拝八開手（はちどはい・はちかいて）」と呼ばれる儀式がありますが、これは祭祀を執行する神職が行うもので、一般参拝者は通常の二礼二拍手一拝で参拝します。

「八」という数は、古来より「八方（あらゆる方向）」「八百万の神（無数の神々）」を表し、限りなく広がることを意味します。

そのため、八度拝・八開手は天地四方八方の神々に礼を尽くす象徴とされてきました。

起源は明確ではありませんが、中世の頃には神宮の祭祀作法として形づくられ、江戸時代には「伊勢神宮では八度拝を行う」と広く知られるようになりました。

現在でも大祭など特別な神事の場でのみ行われる、伊勢神宮ならでは厳かな作法です。

出典：参拝と祈祷（5）－東京都神社庁

出雲大社（いずもおおやしろ）

二礼四拍手一礼

出雲大社は、大国主大神(おおくにぬしのおおかみ)を祀る縁結びの社として知られ、鳥居に下げられた大しめ縄が有名です。

一般的な二礼二拍手一拝とは異なり、正式には二礼四拍手一拝の作法で参拝します。

もっとも、通常の例祭(5月14日の勅祭)では八拍手を行いますが、普段はその半分の四拍手で神を讚えます。

この作法は江戸時代にはすでに行われており、現在まで大切に受け継がれてきました。

いずれの神社でも、参拝方法が異なる場合はその神社独自の作法に従うことが大切です。

出典：[出雲大社での参拝はどのようにするのでしょうか？| よくある質問 | 出雲大社](#)

神社参拝方法を英語で説明する方法

神社参拝でよく使う基本英語表現

神社=「Shinto shrine」

神社は英語で「Shinto shrine」と言います。「Meiji Jingu(明治神宮)a Shinto shrine」のように名称の後につけて使います。

Shrineのみだと、聖人の遺骨や遺物、像などを祀った場所や、聖地、巡礼地、靈場：歴史的または、想像上の神聖視される場所を指すこともあります。

「参拝する」=「worship」または「visit a shrine」

参拝は「Visit a shrine(神社を訪れる)」または「Worship at a shrine(神社で礼拝する)」と表現します。

「手水(てみず)」=「Purification」

手水は「Purification」と表現します。「Purification ritual(清めの儀式)」と説明すると伝わりやすくなります。

「賽銭」=「Offering」

賽銭箱にお金を納める行為は「Make an offering」と説明します。「Offering(お供え・お賽銭)」は神社参拝でよく使う言葉です。

「拍手」=「Clap」

神社参拝時の拍手は「Clap(手を叩く)」を使います。「Clap your hands twice(手を2回叩く)」と説明します。

神社参拝の具体的な方法と英語表現

鳥居の中央は神様の通り道のため、端を歩くのがマナーである

鳥居の中央部分は「正中(せいちゅう)」と呼ばれ、神様が通る神聖な道です。そのため参拝者は中央を避け、端を歩くことが礼儀です。

英語では次のように説明します。

“Please avoid walking in the center of the Torii gate, because it is considered a sacred path for the gods. Walk along either side.”

手水の作法は、両手と口を清めることである

手水の作法は、まず右手に柄杓を持ち左手を清めます。次に柄杓を左手に持ち替え右手を清め、その後左手に水を取り口をすすぎます。最後に柄杓自体を清めて元に戻します。

英語での具体例は以下の通りです。

“First, hold the ladle with your right hand and cleanse your left hand. Switch the ladle to your left hand and cleanse your right hand. Then take water into your left hand to rinse your mouth. Finally, cleanse the ladle itself and put it back.”

賽銭は静かに賽銭箱に入れ、鈴は2~3回鳴らすのが一般的である

賽銭は静かに入れ、賽銭箱の上の鈴は2~3回鳴らします。

英語では次のように伝えます。

“Please place your offering quietly into the offertory box. Then ring the bell two or three times.”

参拝の正式な作法は、二礼二拍手一礼である

正式な参拝の作法は、まず深くお辞儀を二回し、胸の高さで二回拍手をします。その後静かに祈り、最後にもう一度深くお辞儀をします。

英語での具体例は以下の通りです。

“First, bow deeply twice. Then clap your hands twice at chest level. Pray silently, and finally bow deeply once more.”

参拝後は社殿に一礼して退出するのがマナーである

参拝後は社殿に向かって軽くお辞儀をし、境内を退出します。鳥居を出る際にも、振り返って軽く一礼するのが望ましいです。

英語では次のように説明します。

“After praying, lightly bow toward the main shrine building. When exiting through the Torii, briefly turn back and bow lightly again.”

外国人に神社参拝を説明する際の注意点

神道は日本固有の宗教であることを伝える

外国人に説明する際は、神道が日本の土着宗教で、自然や祖先を敬う文化であることを簡単に伝えます。

英語での具体例は以下の通りです。

“Shinto is Japan’s indigenous religion, based on respect for nature and ancestors.”

参拝方法の意味や理由を伝えると理解が深まる

単に作法を教えるだけでなく、その意味や理由を伝えることで、より深い理解を促します。

英語の例は以下の通りです。

“We clap our hands to let the gods know of our presence and purify the area.”

参拝時は帽子やサングラスを外し、静かに参拝することを伝える

参拝時のマナーとして、帽子やサングラスを外し、静かに参拝することを明確に伝える必要があります。

英語での具体例は以下の通りです。